

第19回

でんぎの礎

—振り返れば未来が見える—



*One Step on Electro-Technology
- Look Back to the Future -*



一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan

でんきの礎

—振り返れば未来が見える—

電気学会では創立120周年を迎えた平成20年、「でんきの礎」制度を創設し、電気学術、産業、ひいては社会の発展に大きく貢献した“モノ”、“こと”、“人”、“場所”に対し顕彰を行って参りました。その数は今回の第19回で総計104件に上ります。

これまで顕彰された104件はいずれも栄えある電気の系譜に名を遺すものばかりですが、これらを単なる記録としてとらえるのではなく、そこに関わった人々の「時代を見据えた着想力」や「課題に対する突破力」、さらには「達成に至るまでのご苦労」などにも想いを馳せることで、今の我々が未来を展望する上での規範とすべきと考えます。

電気は、エネルギー源としては勿論のこと、今や身の回りのありとあらゆるシステムの高度化やスマート化に欠くことのできない存在となっています。そのことから、電気工学は人々の悲願である「知的で文化的な生活が持続できる平和な社会の実現」に、大きく貢献できる存在であると言えます。今回、新たに顕彰された「でんきの礎」につきましても、電気工学の輝かしい発展の証であると同時に、明るい未来への道標になってくれるものと確信しております。

令和8年3月

第19回顕彰委員会 委員長

中川 聡子

第19回 でんきの礎

令和8年3月
(顕彰名称50音順)

カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
こと	広範囲な可変速・高出力の永久磁石リラクタンスモータ技術	株式会社東芝 東芝産業機器システム株式会社
こと	コンビニエンスストアによる電気料金などの収納代行システム	東京電力ホールディングス株式会社 株式会社セブン-イレブン・ジャパン GS1 Japan (一般財団法人 流通システム開発センター)
こと	鉄道電化の黎明期を支えた蓄電池の利用	東日本旅客鉄道株式会社 京浜急行電鉄株式会社 京阪電気鉄道株式会社

第19回 「でんきの礎」 決定までの流れ

「でんきの礎」ホームページ等に「でんきの礎」公募案内を掲載

令和7年2月28日 公募締切

令和7年3月 顕彰委員会より顕彰選考小委員会に精査要請

令和7年3月 顕彰選考小委員会による精査（ヒアリング含む）
～令和7年11月

令和7年11月 顕彰選考小委員会より顕彰委員会へ精査結果答申
顕彰委員会にて審議・了承，理事会へ上程

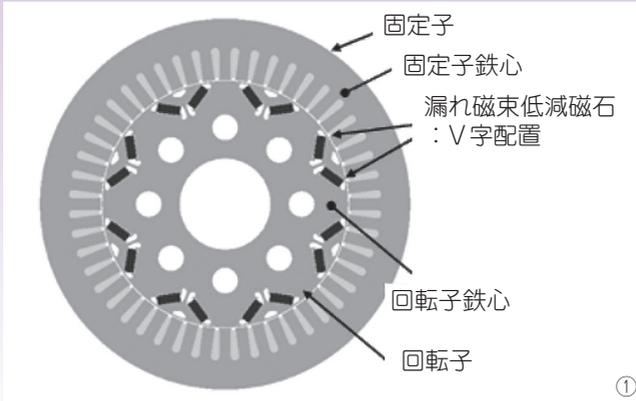
令和7年12月 理事会にて顕彰対象決定
顕彰先に内定連絡

令和8年1月 顕彰先より顕彰承諾回答入手，確定

令和8年3月12日 第19回電気技術顕彰「でんきの礎」授与式にて
顕彰状および記念品授与

こうはん い か へんそく こうしゅつりょく
広範囲な可変速・高出力の
 えいきゅうじしゃくりらくたんすもーたぎじゅつ
永久磁石リラクタンスモータ技術

A Permanent Magnet Reluctance Motor Technology Capable of
 Operating at High Power and Over a Wide Speed Range

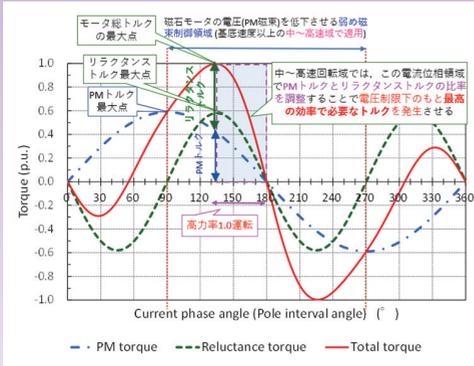


産業用には様々なモータが応用されていますが、特に可変速モータは低炭素と省エネに大きく貢献すると期待されており、高出力かつ高効率で広範囲な可変速運転が求められています。永久磁石モータやリラクタンスモータがその候補として挙げられていますが、高出力で高効率な永久磁石モータは運転時に発生する大きい逆起電圧のため可変速域が狭くなっており、一方で可変速域が広いリラクタンスモータは大きな漏れ磁束のため低出力となっています。

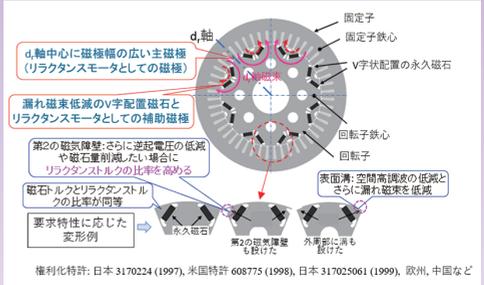
本技術は鉄心の主磁極の側面に漏れ磁束を低減する永久磁石を配置したリラクタンスモータ技術です。永久磁石のV字配置によりリラクタンスモータの漏れ磁束を低減させつつ、磁石トルクとそれと同等以上のリラクタンストルクの2種類のトルクを発生させます。高速運転時には、電流位相（電圧波形に対して電流波形が始まるタイミングのずれ）を進めて逆起電圧の上昇を抑えながら磁石トルクに対するリラクタンストルクの割合を高めることでモータトルクの低下を抑制し、中～高速回転域でも高出力と高効率を得ることができます。結果として可変速比5の広可変速域、および最高効率98%程度の高効率、高出力を可能としました。

本技術は、磁石で漏れを減らしてリラクタンストルクを生む磁束を確保しながらその磁石の磁束も磁石トルクに反映させる制御法を見出したリラクタンスモータ高性能化の初端を開く優れた技術であり、その後のリラクタンスモータ開発や発展の『礎』となりました。

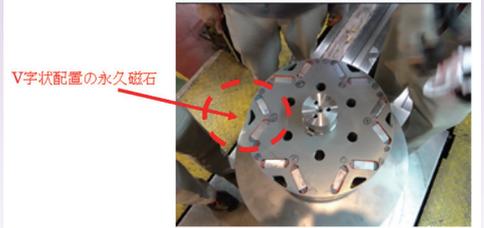
- ☆顕彰先 : ①株式会社東芝, ②東芝産業機器システム株式会社
 ☆所在地 : ①②〒212-8585 神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
 ☆ホームページ : ① <https://www.global.toshiba.jp/top.html>
 ② <https://www.toshiba-tips.co.jp/>



②

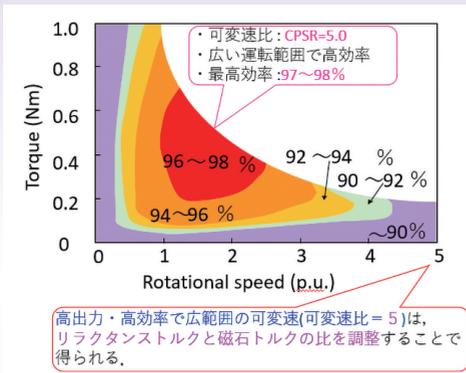


(a)

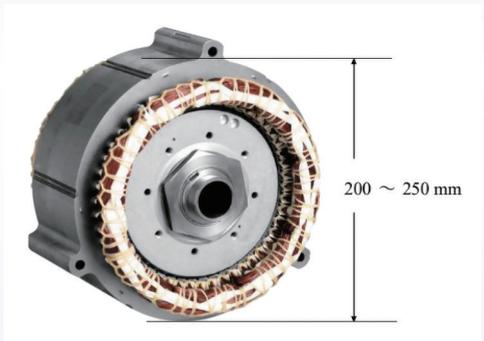


(b)

③



④



⑤

<写真・図提供：株式会社東芝>

- ① 永久磁石リラクタンスモータの基本構成
- ② 異なる成分のトルク出力とトルク比率の電流位相 (Current phase angle) による可変制御
- ③ (a) 磁氣的構成の特徴とその作用・効果
(b) V字状に永久磁石が配置された回転子実機
- ④ 高出力・高効率と広い可変速範囲を両立した優れた可変速運転特性
- ⑤ 自動車電気駆動用永久磁石リラクタンスモータ
(出力 75 ~ 90kW 回転数 13,500 min⁻¹ 外径 200 ~ 250 mm)

でんぎの礎

—振り返れば未来が見える—

こんびにえんすすとあ
コンビニエンスストアによる
 でんきりょうきん しゅうのうだいこうしすてむ
電気料金などの収納代行システム

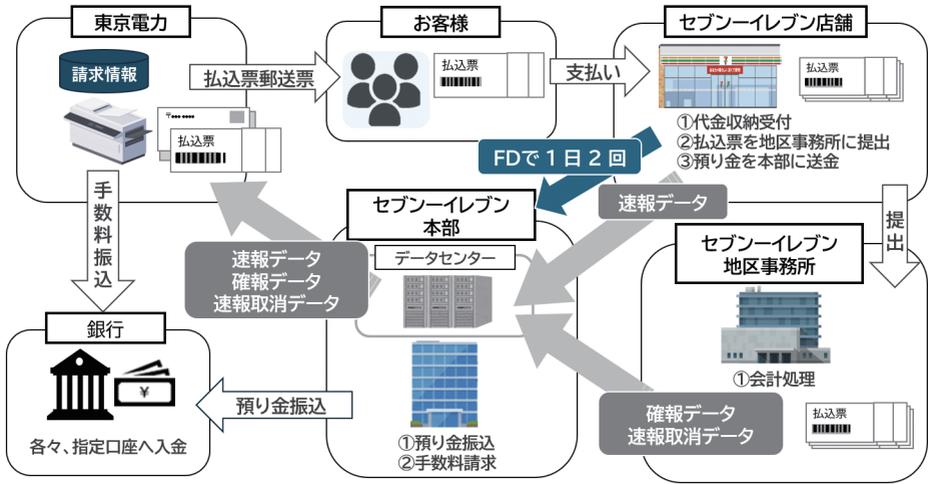
**Integrated Payment Collection System for Electricity
 Charges and Other Consumer Transactions via Convenience Stores**



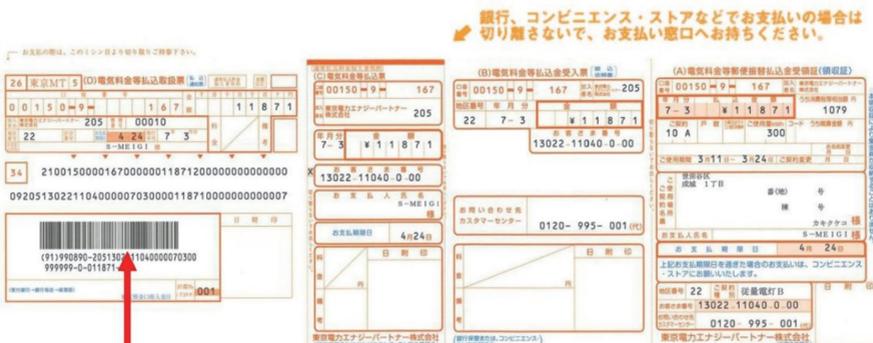
1987年（昭和62年）当時、金融機関での振り込みによる電気料金の支払いは、東京電力管内では全体の16%（288万世帯）にとどまっていた。そこで、コンビニエンスストアで電気料金を支払える「収納代行システム」を開発し、実用化した。この新しい仕組みにより、仕事帰りや夜間でも公共料金を支払えるようになり、利用者の生活スタイルに合った便利なサービスとして大きな支持を得ました。また、収納漏れや入金確認の遅れといった課題も解消され、収納の確実性が大幅に向上しました。開発の過程では、「バーコードの規格化」や「企業間でのデータ連携」など、当時としては難しい技術的課題を一つひとつ解決していきました。具体的には、請求書に「会社名・お客様番号・電気料金」などを表すバーコードを印刷し、コンビニエンスストアで読み取ることで迅速かつ正確な処理を可能にしました。当時はまだオンライン回線が普及しておらず、3.5インチのフロッピーディスクを使って午前と午後の2回店舗からデータを回収し、コンピューターセンターでまとめて処理することで重複収納を防いでいました。このシステムはその後、ガス・水道・電話、受信料などの公共料金や行政の各種税金にまで広がり、便利な仕組みとして社会に定着しました。結果として、収納率の向上や事務の効率化につながり、現在の電子決済システムの発展に大きく貢献した先駆的な取り組みとなりました。

- ☆顕彰先 : ①東京電力ホールディングス株式会社, ②株式会社セブン-イレブン・ジャパン, ③GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）
- ☆所在地 : ①〒100-8560 東京都千代田区内幸町1丁目1番3号
 ②〒102-8455 東京都千代田区二番町8番地8
 ③〒107-0062 東京都港区南青山1丁目1番1号 新青山ビル東館9階
- ☆ホームページ : ①<https://www.tepco.co.jp/> ②<https://www.sej.co.jp/>
 ③<https://www.gs1jp.org/>

当時のビジネススキーム



②



年月	バーコードシステムの進歩
1987年10月	(財)流通システム開発センターにて、 公共料金等のJANコード体系 を制定。 同年10月、(株)セブン-イレブン・ジャパンと東京電力(株)との間でシステム運用開始。 13桁×3JAN = 39桁⇒会社名、お客様番号、電気料金、
2007年4月	JANシンボルによる払込票の取扱終了。 GS1-128 による払込票へ統一。 44桁⇒会社名、お客様番号、電気料金、振込期限など

③

<写真・図提供：①②株式会社セブン-イレブン・ジャパン，③東京電力ホールディングス株式会社，GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）>

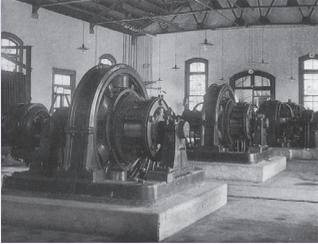
- ① セブンイレブンの収納代行サービス
- ② ビジネススキーム
- ③ 電気料金払込用紙：東京電力ホールディングス株式会社
バーコードシステムの進歩：GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）

でんぎの礎

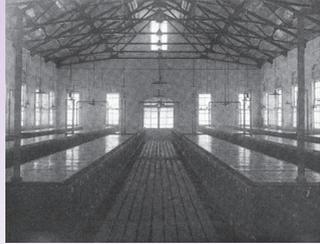
—振り返れば未来が見える—

てつどうでん か れいめい き ささ
鉄道電化の黎明期を支えた
 ちくでん ち りょう
蓄電池の利用

The Historical Contribution of Battery Energy Storage to
 the Early Development of Railway Electrification



①



①



②

電気鉄道の黎明期における国内の電気鉄道向けの電力供給は、電源容量が小さい上、停電も多く発生していました。

こうした状況下で、京浜電気鉄道（現京浜急行電鉄）では、1901年に川崎発電所出力増強に伴い、大森配電所に蓄電池を設置し、電気鉄道運転の閑散時間帯の余剰電力を充電し、朝夕のピーク電力として使用しました。

国有鉄道（現東日本旅客鉄道）では、1912年、信越本線の横川～軽井沢間で電気鉄道運転を開始しますが、自営発電所の出力電圧が不安定であった上、変電所の回転変流器の容量が小さく、故障による停電が発生していたため、丸山変電所、矢ヶ崎変電所に蓄電池設備を設置し、回転変流器の負荷低減、負荷平準化による安定的な電力供給を実現しました。1909年に電化した山手線では電源系統が小容量であったため、1914年の京浜線電化の際、山手線永楽町変電所、京浜線大井町変電所などに蓄電池設備を併設しピーク電力供給を可能とし、輸送力増強に繋がりました。

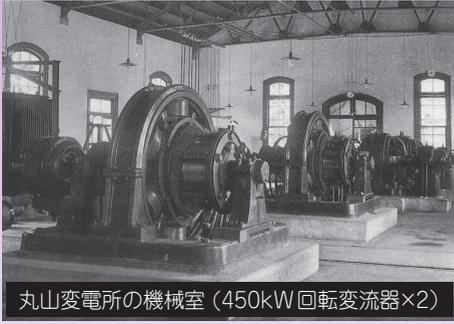
1932年、電力会社からの受電に依存する体制下において電力の使用効率を高めるべく、京阪電気鉄道では、京阪線守口変電所、新京阪線（現阪急電鉄京都線）正雀変電所等に蓄電池設備を設置し、ピーク電力低減を図るとともに停電時の予備電源として運用しました。

このように、鉄道電化の黎明期での蓄電池の利用は、負荷変動の大きい鉄道運行に必要な電力の安定供給や経済性向上を実現させ、電気鉄道発展に貢献しました。

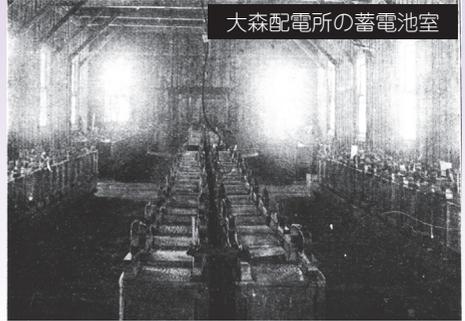
☆顕彰先 : ①東日本旅客鉄道株式会社、②京浜急行電鉄株式会社、
 ③京阪電気鉄道株式会社

☆所在地 : ①〒151-8578 東京都渋谷区代々木二丁目2番2号
 ②〒220-8625 神奈川県横浜市西区高島1丁目2番8号
 ③〒573-0032 大阪府枚方市岡東町19番1号

☆ホームページ : ① <https://www.jreast.co.jp/company/>
 ② <https://www.keikyu.co.jp/> ③ <https://www.keihan.co.jp/>



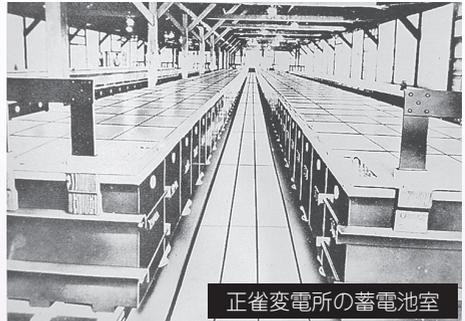
①



③



④



⑤

<写真提供：①④安中市みりょく創出部 文化財課，②（一財）碓氷峠交流記念財団，
③京浜急行電鉄株式会社，⑤京阪電気鉄道株式会社>

- ① 国有鉄道 丸山変電所の機械室 (回転変流器) および蓄電池室
- ② 国有鉄道 信越本線 (横川～軽井沢) アプト式鉄道
- ③ 京浜電気鉄道 川崎発電所の外観および大森配電所の蓄電池室
- ④ 国有鉄道 丸山変電所の外観
- ⑤ 京阪電気鉄道 正雀変電所の蓄電池室

ここでは、第1回～第18回「でんきの礎」101件を紹介しています（顕彰名称50音順、顕彰先の名称は受賞当時のもの）。詳細については、電気学会「でんきの礎」ホームページを参照下さい。

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
1	場所	秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街）	秋葉原電気街振興会（東京都千代田区）
	モノ	インバータエアコン	東芝キャリア（株）
	モノ	ガス絶縁開閉装置	三菱電機（株）、（株）東芝、（株）日立製作所
	場所	交流電化発祥の地（作並駅および仙山線仙台～作並間）	東日本旅客鉄道（株）仙台支社
	こと モノ	500kV 系送電の実運用	東京電力（株）、関西電力（株）
	モノ	座席予約システム：マルス1／みどりの窓口の先がけ	（財）東日本鉄道文化財団 鉄道博物館
	人 場所	志田林三郎と多久市先覚者資料館	多久市先覚者資料館
	こと	電力系統安定化技術	東京電力（株）、中部電力（株）、 関西電力（株）、九州電力（株）
	モノ	日本語ワードプロセッサ JW-10	（株）東芝
	人 場所	藤岡市助と岩国学校教育資料館	岩国学校教育資料館
2	人 モノ	岡部金治郎と分割陽極マグネトロン	東北大学 電気通信研究所
	こと	新幹線鉄道システム～高速鉄道の先駆的研究成果～	（財）鉄道総合技術研究所
	モノ	電気釜	（株）東芝、（株）サンコーシャ
	モノ こと	電子顕微鏡 HU-2 型（透過型電子顕微鏡）	（株）日立ハイテクノロジーズ、 （社）日本顕微鏡学会
	モノ	電力用酸化亜鉛形ギャップレス避雷器	MSA（株）、パナソニックエレクトロニックデバイス（株）
3	モノ	ウォークマン TPS-L2	ソニー（株）
	モノ	ノンラッチアップ IGBT （絶縁ゲート・バイポーラトランジスタ）	（株）東芝
	場所 こと	明治期の古都における電気普及の先進事蹟 ～琵琶湖疏水による水力発電および電気鉄道に関する事業発祥の地～	京都市上下水道局、関西電力（株）、 京都市交通局
	モノ こと	臨界プラズマ試験装置 JT-60	（独）日本原子力研究開発機構 核融合 研究開発部門・那珂核融合研究所
4	人 モノ こと	加藤與五郎、武井武によるフェライトの発明と齋藤憲 三による事業化	東京工業大学、TDK（株）
	人 モノ こと	古賀逸策と水晶振動子	東京工業大学
	モノ 場所	5馬力誘導電動機および小平記念館	（株）日立製作所
	人 モノ	高柳健次郎と全電子式テレビジョン	静岡大学 高柳記念未来技術創造館
	モノ	電球形蛍光灯ランプ	東芝ライテック（株）
	モノ	フルカラー大型映像表示装置（オーロラビジョン）	三菱電機（株）

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
5	モノ こと	NE 式写真電送装置	日本電気(株)
	モノ こと	家庭用ビデオと放送番組視聴の実現	ソニー(株)
	モノ	カドニカ(密閉型ニッケルカドミウム蓄電池)	パナソニックグループ エナジー社 三洋電機(株)
	モノ こと	PC-9800 シリーズ	NEC パーソナルコンピュータ(株)
	モノ こと 場所	依佐美送信所と超長波による初の欧州との無線通信	依佐美送信所記念館(刈谷市)
6	モノ	NC 装置(数値制御装置)	ファンナック(株)
	モノ こと	OF 式コンデンサ〜その製品化と電力系統への適用〜	日新電機(株) 京都本社工場
	モノ	クォーツ腕時計	セイコーエプソン(株)
	場所 こと	黒部川第四発電所	黒部川第四発電所
	こと 人	工部省工学寮電信科と W. E. エアトン	東京大学工学部電気系学科
	こと 人	鉄腕アトム〜国産初の連続長編アニメーション放送〜	(株)手塚プロダクション, 虫プロダクション(株)
	モノ	トランジスタラジオ TR-55	ソニー(株)
	モノ	ピエゾ抵抗式半導体圧力センサ	(株)豊田中央研究所
	モノ こと	北海道・本州間電力連系設備〜日本初の本格直流送電設備〜	電源開発(株)
	モノ	マイコンレジスタ BRC-32CF-GS	東芝テック(株)
人	屋井先蔵	東京理科大学、(一社)電池工業会	
7	モノ	魚群探知機	古野電気(株)
	モノ	全熱交換形換気機器 ロスナイ	三菱電機(株)
	モノ	電子制御モータを生んだ高感度 InSb 薄膜ホール素子	旭化成(株)
	モノ こと	pin ダイオードと静電誘導トランジスタ・サイリスタ	東北大学
	モノ こと	郵便物自動処理システム	(株)東芝、郵政博物館
	モノ	ラップトップ PC T1100	(株)東芝
8	モノ こと 人	初代電信頭石丸安世と磁器碍子	(株)香蘭社
	モノ こと	地図型自動車用ナビゲーションシステム	本田技研工業(株)
	こと	直接衛星放送サービス	日本放送協会 放送技術研究所
	モノ	光干渉計式ガス検知器	理研計器(株)
	こと 人	帆足竹治の発見した回路網結合の法則「帆足-Millman の定理」	早稲田大学

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
9	モノ こと	すべり周波数形ベクトル制御誘導電動機ドライブの実用化	(株)東芝, (株)安川電機
	モノ 場所 こと	大容量高効率コンバインドサイクル発電 ～東新潟火力発電所 3-1 号系列～	東北電力(株), 三菱日立パワーシステムズ(株), 三菱電機(株)
	モノ こと	デジタルファクシミリ リファクス 600S	(株)リコー
	こと	ハイビジョン方式	日本放送協会 放送技術研究所
	モノ	半導体メモリ 64kbit DRAM	(株)日立製作所
	モノ	無声放電励起三軸直交形炭酸ガスレーザ	三菱電機(株)
10	モノ こと	安全・安定輸送を支えた新幹線電気軌道総合試験車 (ドクターイエロー)	東海旅客鉄道(株), 西日本旅客鉄道(株), 東日本旅客鉄道(株)
	モノ こと	小型地下鉄用リニアモータ駆動システムの開発と実用化	(一社)日本地下鉄協会, (株)日立製作所
	場所 こと	佐久間周波数変換所	電源開発(株)
	場所 こと	三居沢発電所～水力発電発祥の地～	東北電力(株)
	モノ	送電系統用 STATCOM	関西電力(株), 三菱電機(株)
	モノ こと	大容量短絡試験設備と超高压衝撃電圧発生装置	(一財)電力中央研究所
	モノ こと	デジタル技術による送電線電流差動保護方式	東京電力パワーグリッド(株), (株)東芝
	モノ	半導体イオンセンサ ISFET	東北大学
11	モノ 人	エレキテルと平賀源内	(公財)平賀源内先生顕彰会
	モノ こと	旧端出場水力発電所と海底送電	住友共同電力(株)
	モノ こと	酸化亜鉛バリスタ	パナソニック(株)
	モノ こと	30 万 V 超高压電子顕微鏡	名古屋大学, (株)日立製作所
	モノ こと	電力システムの解析法 (Y 法, S 法) とシミュレータ設備	(一財)電力中央研究所
	モノ こと	MU レーダー (中層超高層大気観測用大型レーダー)	京大大学生存圏研究所, 三菱電機(株)
12	モノ	送信用アレキサンダーソン型高周波発電機	東芝エネルギーシステムズ(株)
	モノ	鉄道信号用電子連動装置 SMILE	(公財)鉄道総合技術研究所, 東日本旅客鉄道(株), 大同信号(株), 日本信号(株), (株)京三製作所
	こと	電力安定供給を支えた全国電力融通	電力広域的運営推進機関
	モノ 場所 こと	電力保安通信用マイクロ波無線 ～仙台～会津若松間無線回線～	東北電力(株), 日本電気(株)

受賞回	カテゴリー	顕彰名称	顕彰先
13	モノ こと	回生ブレーキ付き電機子チョップ制御車両 ～千代田線 6000 系車両の開発～	東京地下鉄(株)、三菱電機(株)、 (株)日立製作所
	モノ 人	川原田政太郎と OYK モータ(自動同期引込形誘導同期電動機)	早稲田大学
	モノ	大容量 3 レベル中性点クランプインバータ	長岡技術科学大学、(株)日立製作所、 (株)東芝、三菱電機(株)、富士電機(株)、 東芝三菱電機産業システム(株)
	こと 人	中嶋章とスイッチング理論	日本電気(株)
	モノ	方向性電磁鋼板オリエントコアハイピー	日本製鉄(株)
14	モノ こと	産業プロセス分野向け分散型制御システム	横河電機(株)
	モノ	電磁型オシシログラフ	横河電機(株)
	モノ 場所 こと	100 万ボルト変電機器の開発と実証試験 ～新様名変電所における実証試験を通じた変電技術発展 と国際標準化への貢献～	東京電力パワーグリッド(株)、東芝エ ネルギーシステムズ(株)、(株)日立製 作所、三菱電機(株)、日本ガイシ(株)
	こと 人	鳳秀太郎と「鳳 - テプナンの定理」の実用的応用	東京大学工学部電気系学科、東北大学
	モノ	冷凍機冷却ニオブ・チタン超電導マグネット ～液体ヘリウム不要の 4 K (-269℃) 極低温動作～	東芝エネルギーシステムズ(株)
15	モノ こと	三相回路の瞬時無効電力理論とその波及	長岡技術科学大学、東京工業大学、 ブラジル リオデジャネイロ国立大学
	モノ こと	自動車用電動パワーステアリングシステム	(株)ジェイテクト、三菱電機(株)
	こと	電食被害の低減方法の確立と普及	(一社)電気学会 電食防止研究委員会
16	人 こと	青柳卓雄によるパルスオキシメータの発明	日本光電工業(株)
	人 モノ	椎尾調の発明によるベルトー口整流器	(株)中央製作所、名古屋大学、 名古屋工業大学
	モノ こと	連結鉄心による高密度巻線モータ～ボキボキモータ～	三菱電機(株)
17	モノ	重粒子線がん治療装置 HIMAC	量子科学技術研究開発機構 量子生命・ 医学部門、住友重機械工業(株)、東芝エ ネルギーシステムズ(株)、(株)日立製作所
	こと	スーパージャンクション半導体デバイスの理論構築	富士電機(株) 松本工場、山梨大学
	モノ	鉄道用単線自動閉そく「電子閉そくシステム」	(公財)鉄道総合技術研究所、東日本旅 客鉄道(株)、日本信号(株)、大同信号(株)
	モノ こと	都市型公共交通システムの無人運転の実現と国際規格 化への貢献	大阪市高速電気軌道(株)、新潟トラン シス(株)、神戸新交通(株)、川崎車両(株)、 (株)神戸製鋼所
18	モノ こと	エアコン用高効率リラクタンストルク併用希土類磁石 モータとその省電力運転	ダイキン工業(株)、大阪公立大学
	モノ こと	FM 音源の実用化と普及	ヤマハ(株)
	モノ こと	セグメントコンダクタ巻線技術～自動車用高効率電動 機の平角導体を用いた高速巻線技術～	トヨタ自動車(株)、(株)デンソー
	モノ	非接触 IC カード出改札システム	(公財)鉄道総合技術研究所、 東日本旅客鉄道(株)、ソニー(株)

第 19 回顕彰委員会

令和 7 年 12 月

委員長	中川 聡子	東京都市大学	第 106 代会長
委員	斉藤 史郎	(株) 東芝	第 107 代会長
委員	大崎 博之	東京大学	顕彰選考小委員会主査
委員	勝野 哲	中部電力 (株)	第 108 代会長
委員	安田 恵一郎	東京都市大学	第 109 代会長
委員	伏見 信也	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	第 110 代会長
委員	山下 圭	東京電力ホールディングス (株)	第 111 代会長
			総務企画理事

第 19 回顕彰選考小委員会

令和 7 年 12 月

主査	齊藤 史郎	(株) 東芝
副主査	澤川 敏之	東京理科大学
委員	江川 紀充	工学院大学
委員	江川 邦彦	三菱電機 (株)
委員	桂井 邦彦	東京大学
委員	腰塚 正誠	東京電機大学
委員	駒田 諭	三重大学
委員	米谷 晴之	三菱電機 (株)
委員	佐伯 勝敏	日本大学
委員	佐藤 康生	(株) 日立製作所
委員	重枝 秀紀	(公財) 鉄道総合技術研究所
委員	庄子 一孝	早稲田大学
委員	高木 茂孝	東京工業大学
委員	南波 俊文	中部電力パワーグリッド (株)
委員	福岡 建志	東京電力ホールディングス (株)
委員	保科 好一	東芝エネルギーシステムズ (株)
委員	水谷 良一	古河電気工業 (株)
委員	元木 誠	関東学院大学
委員	森實 俊充	大阪工業大学
委員	山口 順一	香川大学
幹事	平澤 一樹	関東学院大学
幹事	榎本 裕治	(株) 日立製作所
幹事	稲森 真美子	東海大学

顕彰先には記念品として
クリスタルトロフィー (手前)
もしくは青銅プレート (奥)
を授与しています



電気技術の顕彰制度『でんきの礎』^{いしづえ}公募案内

電気技術の顕彰制度「でんきの礎」は、平成20年の電気学会創立120周年の記念事業の一環として設立されたもので、毎年数件程度を選定、顕彰しています。

「でんきの礎」候補の提案は、会員資格の有無を問わずどなたでもお寄せいただけますので、下記公募要領をご参照の上、多数の候補をご提案いただきますようよろしくお願いいたします。

～ 公 募 要 領 ～

〈目的〉

電気技術の顕彰制度『でんきの礎』は、「21世紀においても持続可能な社会」を考える上で、20世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を振り返り、その中でも特に価値のあるものを顕彰することによって、その功績をたたえるものです。これによって、その価値を広く世の中に周知し、多くの人々に電気技術の素晴らしさ、おもしろさを知ってもらい、今後の電気技術の発展に寄与することを目的とします。

〈選定指針〉

電気技術顕彰『でんきの礎』は、電気技術の隠れた功績・善行などをたたえ、広く世間に知らせるものであり、技術的価値、社会的価値、学術的・教育的価値のいずれかを有し、おおよそ25年以上経過したものとします。

〈選定基準〉

少なくとも次の(1)～(3)の価値のうち一つ以上の価値を有するものとし、かつ(4)に該当するものとします。また、サイバー空間上の情報発信や交流等も対象とします。

(1) 技術的価値

電気技術の発展史上重要な成果を示す物件、史料、人物、技術、場所などで、以下に該当するもの。

1. 未来技術に貢献をしたもの(途中で埋もれた技術も含む)
2. 独創的で第一号になったもの
3. 世界的業績あるいは世界標準になったもの

(2) 社会的価値

国民生活、経済、社会、文化のあり方に顕著な影響を与えたもので、以下に該当するもの。

4. ライフスタイル、コミュニケーション方法を変え、新しい文化を築くなど、社会変革をもたらしたもの
5. 電気に関連する産業あるいは事業の発展に著しく貢献したもの
6. 循環型社会を支える技術あるいは省電力化技術のさががけとなったもの

(3) 学術的・教育的価値

電気技術を次世代に継承する上で重要な意義を持つものとし、以下に該当するもの。

7. 新しい概念の提案、電気理論の構築を行ったもの
 8. 学術的研究で電気工学の発展に貢献したもの
 9. 電気工学の教育に大きく寄与したもの
- #### (4) 共通
10. おおよそ25年以上経過したもの

〈顕彰対象カテゴリー〉

顕彰の対象のカテゴリーは、「人」、「モノ」、「場所」、「こと」の4種類とし、国内の電気技術の業績に限定します。

〈提案者の資格〉

電気学会会員・非会員に係わらずどなたでも提案できます。

〈選考方法〉

顕彰委員会にて、厳正なる審査(現地調査・ヒアリング含む)を行い、電気学会としてこれを決定します。

〈顕彰件数と顕彰時期〉

毎年、数件程度を選定し、発表します。3月の電気学会全国大会に合わせて顕彰式を行い、顕彰状および記念品を授与する予定です。

〈提案期限〉

提案は随時受け付けています(詳細はホームページ参照)。

【提案方法】

「でんきの礎」ホームページの「公募案内」から、「ご提案はこちらから」より必要事項(提案テーマ名・提案する理由など)をご入力いただき、ご提案ください。

[問合せ]

〒102-0076 東京都千代田区五番町6-2
HOMAT HORIZONビル8階

一般社団法人 電気学会 総務課 顕彰担当

Eメールアドレス: ishizue@iee.or.jp

でんきの礎 HP: <https://www.iee.jp/foundation/>



一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan

<https://www.iee.jp/foundation/>

でんきの礎

検索



2026年3月12日 発行
一般社団法人 電気学会
〒102-0076 東京都千代田区五番町 6-2
TEL : 03-3221-7312 (代表) FAX : 03-3221-3704
ホームページ <https://www.iee.jp>
©2026 一般社団法人 電気学会

The Institute of Electrical Engineers of Japan
6-2, Go-Bancho, Chiyoda-ku,
Tokyo 102-0076, Japan
TEL : +81-3-3221-7312 FAX : +81-3-3221-3704
URL : <https://www.iee.jp>
©2026 The Institute of Electrical Engineers of Japan